

施工事例

機械仕様についての詳細は、ホームページをご確認ください。

■ 岐阜県羽島郡笠松町

施工内容	既設水路暗渠化・家屋近接
施工時期	H28/12～H29/2
延長	42.0m
使用函材	ボックスカルバート 3500×1700×1500
機械仕様	オープンピット 5.0B×3.35H×9.63L



■ 愛媛県新居浜市

施工内容	既設水路暗渠化・家屋近接
施工時期	H28/11～H29/2
延長	119.53m
使用函材	ボックスカルバート 1500×1500×1500
機械仕様	オープンピット 2.5B×3.84H×8.01L



■ 滋賀県栗東市

施工内容	新設水路・JR(新幹線)近接
施工時期	H27/5～H27/9
延長	189.3m
使用函材	ボックスカルバート 2300×1100×2000, 1200×1100×2000
機械仕様	オープンピット 3.3B×2.1H×8.4L, 2.2B×2.1H×8.4L



オープンピットSMALL

軽量 小型 低価格

一般に、ボックスカルバート内幅600～1500mm程度、深さ3.0m未満を対象とした軽量・小型・低価格の規格です。



簡易支持力試験機
(エレフット)
施工前に地盤支持力の
安全を確認！

オープンピット工法協会

事務局

〒105-0012
東京都港区芝大門1-6-3(武井ビル2階)
TEL:03-5408-1870
FAX:03-5408-1871
MAIL:openpit.shield@gmail.com

<http://www.openpit.jp/>

工法協会会員

五十音順

正会員 インフラテック株式会社
株式会社トーメック 日本コンクリート株式会社
株式会社ミルコン

賛助会員 エスシー技建株式会社
株式会社オオスミ
共伸機電工業株式会社
東京インキ株式会社 株式会社ポーテック
株式会社眞殿建設
ランデックス工業株式会社

202009-②

開削型自走式土留工法

特許第6249582号取得

NNTD 登録番号:1123

NETIS 登録番号:CB-990017-A(旧番号)

オープンピット工法®

OpenPit Method



オープンピット工法協会

<http://www.openpit.jp/>

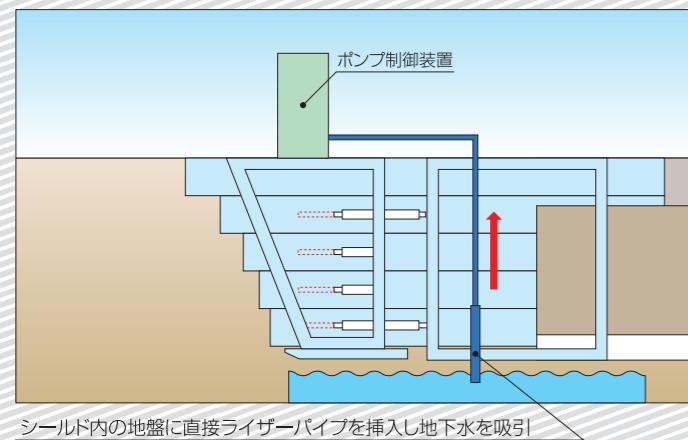
工法の概要

オープンピット工法は、開削型シールド機を用いて、**函(管)渠埋設等**を行う土留工法です。
メッセル(鋼矢板)を1枚ずつ地中に押込んで前進する**自走式**であり、**函体に反力を必要としません。**
函渠、開渠等の製品条件を選ばず、厳しい施工条件下で大きな威力を発揮します。

工法の6つの特徴

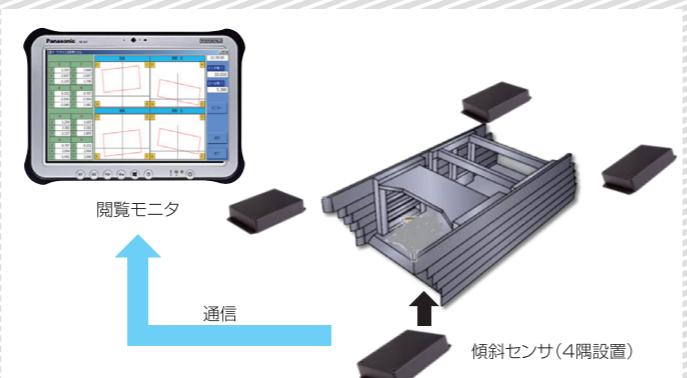
01 新機能 地下水対策のバキュームシステム

地下水の多い現場でも水を吸い上げ施工可能に!
吸水量を自動調整する独自のシステムにより、過剰吸い上げ
を抑制し、周辺への影響を軽減!



02 新機能 ICT施工システムで施工性向上

傾斜センサーによりシールド機の傾きをリアルタイムで確認!
タブレット・PCで状況を遠隔確認し、施工の見える化を実現!



03 無振動・無騒音の施工

油圧操作で推進のため、振動・騒音なし。
周辺への影響が最小限!

05 スピーディーな施工

日進量が多く、施工延長が長くなるほど高い経済性を発揮!

04 あらゆる函種に対応

PC連結型だけでなく耐震ゴム付ボックス、
ヒューム管やU型水路にも対応!

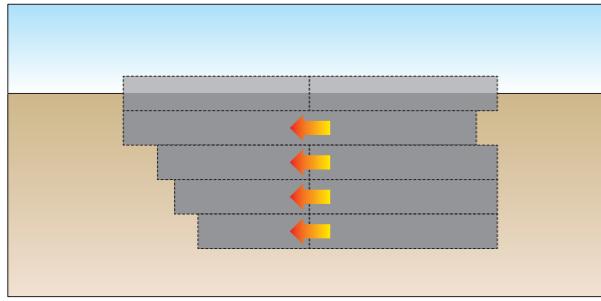
06 土質による制約を受けない

軟弱なシルト層から転石・巨礫層に至るまで幅広い土質に対応可能!

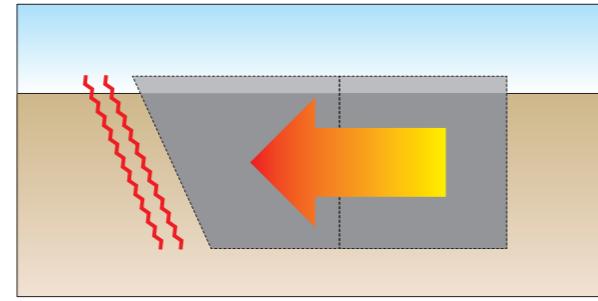
メッセル型の利点

一体型のシールド機と異なり、メッセルを1枚ずつ地山へ貫入させるため、先掘りが不要で、周辺地盤への影響を抑えます。

○ メッセル型



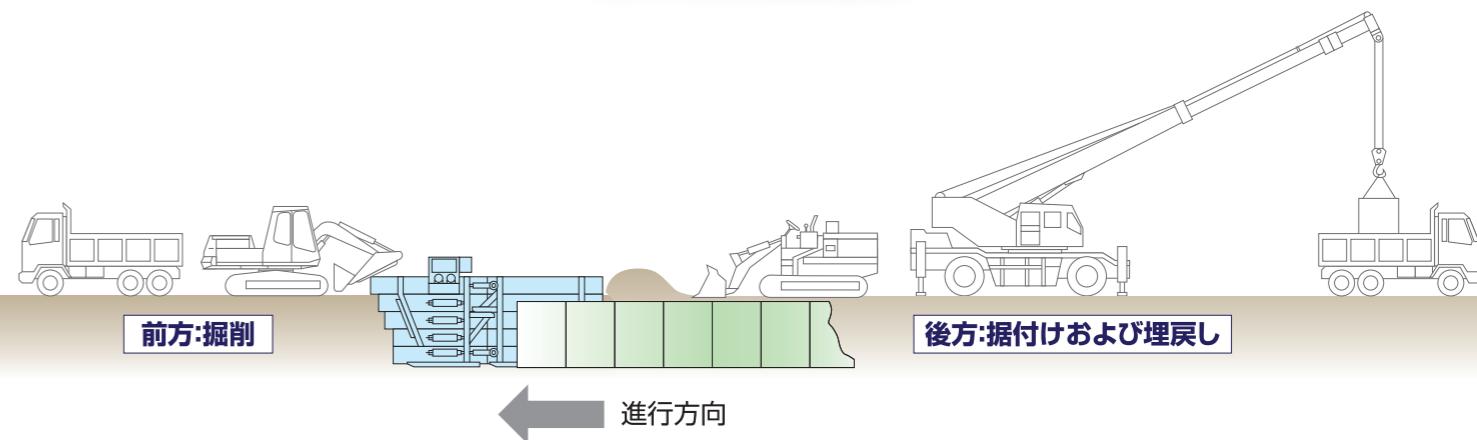
△ 在来のシールド工法



1枚ずつの貫入で、周辺への影響が少ない!

先掘りが必要で、周辺への影響が大きい。

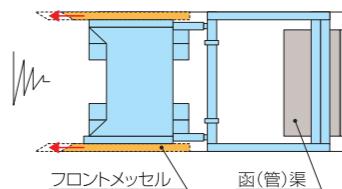
標準機械配置図



施工手順

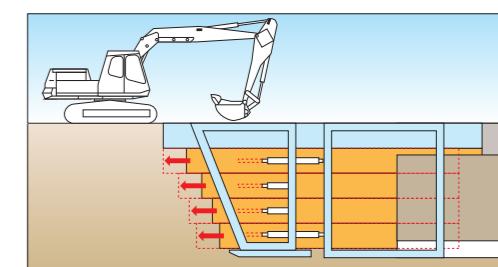
1 メッセルの地山貫入

左右のメッセルを1枚ずつ地山へ貫入させる。
(フロントジャッキを伸ばす)



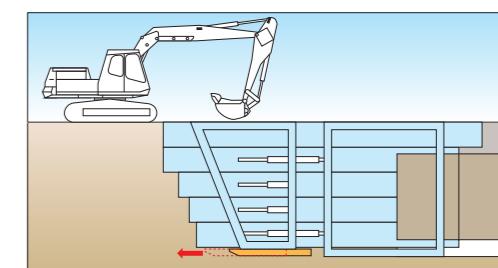
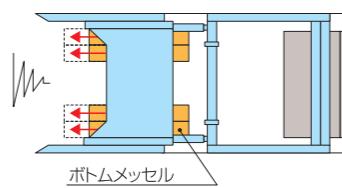
2 掘削

シールドマシンの前方に配置したバックホウで地山を掘削する。



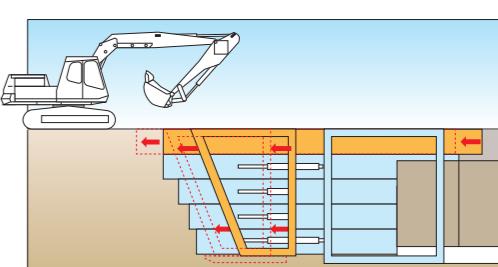
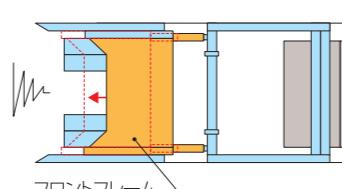
3 ボトムメッセルの地山貫入

ボトムメッセルを左右1枚ずつ地山へ貫入させる。
(ボトムジャッキを伸ばす)



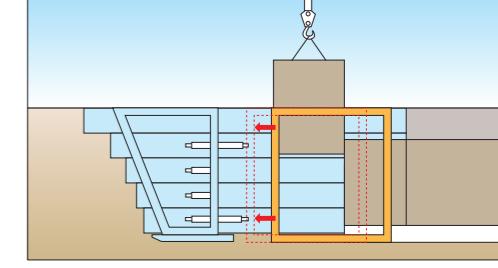
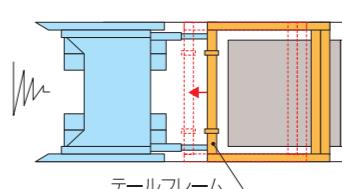
4 フロントフレーム推進

フロント、ボトムジャッキを全て縮める。
(フロントフレーム前進)
フロントフレームが前進するのと同時に中間ジャッキを伸ばす。



5 テールフレーム推進

中間ジャッキを全て縮める。



6 函渠据付け・埋戻し

函渠分進んだところで、シールドテール部にて基礎を施し函渠を据付け埋め戻す。